学校番号	105

令和３年度　理科

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「改訂高等学校化学基礎」　（第一学習者）						
副教材等	「改訂ニューグローバル　化学基礎」　（東京書籍出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

教科書、授業プリント、副教教材等を中心に授業を行い、基本的な化学的な基礎を身に付ける。特に「物質量」の範囲については重点的に学習する。適宜、実験やグループワークを取り入れ、生徒主体の授業であるアクティブラーニングを行なう。

２　学習の到達目標

化学基礎は自然科学の中で「物質」について研究を行う学問であり、その構造、性質、化学反応を学ぶ。化学的思考力の基礎を身につけることにより、日常生活や社会と関連付けて考察できるようになる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察･実験の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探求しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	物質とその変化の中に問題を見いだし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考え方を的確に表現している。	物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	・行動観察 ・ワークシート ・グループワーク ・定期考査 ・提出課題 ・実験	・行動観察 ・ワークシート ・グループワーク ・定期考査 ・提出課題 ・実験	・行動観察 ・ワークシート ・グループワーク ・定期考査 ・提出課題 ・実験	・行動観察 ・ワークシート ・グループワーク ・定期考査 ・提出課題 ・実験

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	化学と人間生活・物質の構成	化学と日常生活の関係	○				a:日常生活と化学の関わりや、物質の構成について意欲的に探求している。 b:身近な化学反応の種類と具体例を考え、判断できる。また、物質を構成する粒子や結合について考え、自分自身の言葉で表現できる。 c:日常生活で利用されている化学反応と物質の種類と原理について実験を通して観察して表すことができる。 d:生活の中で化学が利用されている例を知り、生活との関わりがわかる。また、周期表を中心に結合や、物質の構成について理解する。	・行動観察 ・ワークシート ・グループワーク ・定期考査 ・提出課題 ・実験
		物質の構成			○			
		化学結合				○		
2学期	物質の変化	物質量と化学反応式		○			a: 物質量、化学反応式、酸と塩基について関心をもち、意欲的に探求する。 b:化学反応式の量的関係から物質量を適切に表現できる。また酸と塩基の中和反応の量的関係について適切に表現できる。 c: ：化学反応における物質の変化とその量的関係や酸と塩基について実験を行い、基本操作を習得する。 d:物質量や酸と塩基の量的関係について理解し、基本的知識を身に付けている。	・行動観察 ・ワークシート ・グループワーク ・定期考査 ・提出課題 ・実験
		酸と塩基の反応				○		
3学期		・酸化還元反応			○		a:酸化、還元について関心をもち、意欲的に探求する。 b:酸化還元反応を酸素、水素、電子の授受で表現できる。 c:酸化還元反応について実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を記録、整理できる。 d:酸化還元が電子の授受によること、酸化還元反応と日常生活との関わりについて理解し、基本的知識を身に付ける。	・行動観察 ・ワークシート ・グループワーク ・定期考査 ・提出課題

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c: 観察・実験の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。